

枝変りキャンベル・アーリーの特性について

板井 隆・美濃徳明・中村昭二(大分県農業技術センター)

ITAI, T., N. MINO and S. NAKAMURA : Characteristics of Bud Mutant Species from 'Campbell Early'

キャンベル・アーリーは近年、デラウェアや巨峰などの供給増大によって、市況が低迷し、更新が推進されつつあるが、大分県日出町で発見されたキャンベル・アーリーの芽条変異種は、熟期が早く、果粒が大きいなど優れた特性が認められ、代替種として期待されたため、1980年、1981年の2年間にわたって特性を調査したのでその概要を報告する。

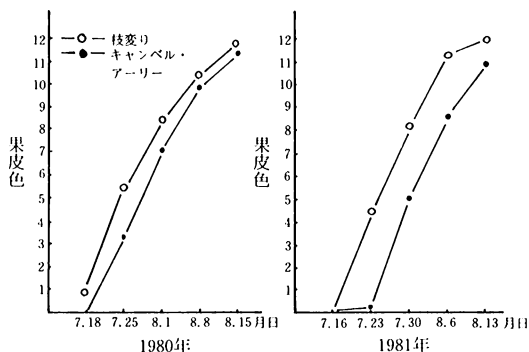
1. 材料及び方法

原木からさし木によって育成した6年生樹3本を供試し、同樹令のキャンベル・アーリーと比較調査した。果皮色の変化は7月中旬から7日隔隔で1果房内を早、中、遅の3ランクに分け、カラーチャートによって調査した。

2. 結果の概要

1) 樹勢はキャンベル・アーリーよりやや弱く、樹冠の広がりも同程度かやや小さい。枝しょうはキャンベル・アーリーよりも太く、節間がつまってやや短い。葉は厚く葉脈が鮮明で、きょ爾が小さく鋭い。

2) 着色始めがキャンベル・アーリーよりも7日程度早く、果皮色の変化は7日程度の差で推移し、8月初旬にはほぼ完全に着色する。果実内容も8月初旬には糖度が14~15%、酸含量は0.6%で完熟状態となり、成熟期は7日程度早い。



第1図 果皮色変化

3) 果房は大房で摘粒しないと400~500gになる。果粒重は7~8gであり、キャンベル・アーリーよりも2~3g大きい。食味は類似しているが狐臭がやや弱い。

4) 花振り性はキャンベル・アーリーと同程度で少なく、病害虫抵抗性も強いので栽培の容易な品種である。

5) 根端の染色体数の調査では75まで確認できたので本変異種は4倍体と思われる。

以上の結果から、この芽条変異種は、育成地では8月初旬(対照のキャンベル・アーリーの熟期は8月中旬)に熟期となる早生種であり、果粒が大きく、着色も容易であるた

め、摘粒等の果房管理を十分に行なえば外観は良好である。このことから、8月中旬前に完熟させる地域でのキャンベル・アーリーの代替種として有望と思われる。

第1表 果実特性(1980年)

月・日	品種名	果房重 g	果粒重 g	糖度 %	酸含量 %	全核数
7.25	枝変り	362.4	6.6	10.8	1.58	
	キャンベル・アーリー	248.3	4.1	8.6	2.32	
8.1	枝変り	345.9	7.8	12.0	1.00	
	キャンベル・アーリー	243.7	5.4	11.3	1.21	
8.8	枝変り	350.6	8.0	12.7	0.66	2.4
	キャンベル・アーリー	204.5	5.0	12.2	0.81	3.5
8.15	枝変り	296.9	7.6	13.3	0.56	
	キャンベル・アーリー	232.0	5.3	12.8	0.57	

第2表 果実特性(1981年)

月・日	品種名	果房重 g	果粒重 g	糖度 %	酸含量 %	全核数
7.30	枝変り	303.3	7.1	13.0	0.81	
	キャンベル・アーリー	202.8	4.7	11.3	1.30	
8.6	枝変り	278.5	7.1	14.7	0.59	2.3
	キャンベル・アーリー	218.4	5.2	14.0	0.74	3.1
8.13	枝変り	263.0	6.8	14.8	0.52	2.0
	キャンベル・アーリー	218.0	5.2	14.0	0.62	3.0

